



2016年度JABアワード

---

選考理由

# 審査基準

- 不適合が無い、欠点が無いことではなく、P D C Aの継続的な実践によって、
    - 事業の特性に応じた、
    - 特徴のあるマネジメントシステムが構築・運用され、
    - 着実な成果が得られている
- かどうかを基準に判定を行いました。
- 書類審査、現場審査の2段階。
  - 2016年度は11組織から応募（昨年度16組織）。



# 選考メンバー

【リーダー】 中央大学理工学部 経営システム工学科 教授  
中條 武志

【メンバー】 株式会社 エイリイ・エンジニアリング  
伊藤 明

富士通株式会社  
川口 努

公益財団法人 日本適合性認定協会  
久保 真

大阪いずみ市民生活協同組合  
土居 栄三

# 2016年度表彰組織

- 東芝エレベータ株式会社  
(神奈川県)
- 早川ゴム株式会社  
(広島県)
- 社会福祉法人敬仁会  
(鳥取県)

# 東芝エレベータ株式会社



主な事業：昇降機の開発・販売・据付工事・保守・改修

## 【事業の特性】

- ◆ 顧客はゼネコン、ビル管理会社、利用者など。海外は東南アジアが主な市場。
- ◆ 基本的な品種は少ないが、建物ごとに設計が必要。保守すべきエレベータが11.6万台あり、国内では約3000人が保守・サービスに携わっている。

## 【MSの特徴】

### 1. 3つの委員会を核にした、事業経営と一体となった目標・方策の展開

- ◆ 環境ビジョン2050のもと、Product, Process, Managementの3ヶ年計画を策定。全社・事業所の年度推進計画では、目標達成の具体的な施策を設定
- ◆ 年度末には事業所毎にレビューを行い、それを受けて全社のレビューを実施

### 2. リスクマップや環境側面の分析に基づいて推進アイテムを抽出

- ◆ 現地・現物にマトリックスを用いて環境側面を洗い出し、目標・施策でカバーするもの、運用管理でカバーするもの、教育・訓練でカバーするもの等に区分

### 3. 社員の環境意識高揚のための工夫

- ◆ ecoスタイルリーダー（環境関連資格保有者・eco検定合格者）を計画的に育成
- ◆ 国内・海外の事業所における“環境活動のバトン活動”

## 【成果】

- ◆ 製品系・事業系とも、環境効率向上、CO2排出量削減等の着実な成果を達成
- ◆ eco検定合格者は累計204名、266事業所に及び環境活動のバトン活動の成功

# 早川ゴム株式会社



主な事業：建設用資材、産業用資材、自動車用品、微粒子関連の製造・販売

## 【事業の特性】

- ◆ 建設、建築、自動車など主として国内業界向け
- ◆ ゴム関連を中心に多種多様な製品を製造・販売するB to B型メーカ

## 【MSの特徴】

1. 10年後の将来展望をベースとしたシステムティックな活動の展開
  - ◆ 未来創造プロジェクトで将来展望を描き、部門別・個人別活動計画に展開
  - ◆ 活動の実践に当たっては小集団活動（ASTIQ活動）を効果的に活用
  - ◆ 各スキルを4段階で評価し、能力開発計画と個人別業務計画を一体化
2. カイゼン提案制度や「作業の要点/異状の定義」を運用
  - ◆ 一人年間3件以上を目標に年間3000件を超える提案を活動に活かす
  - ◆ 作業の要点と異状の判定基準/一次的対処事項を現場で掲示、調達先へも展開
3. チャレンジを奨励する行動指針と新製品開発への積極的な取り組み
  - ◆ 顧客打合せシートを起点に、テーマ・基本仕様設定から初品に対するアンケート調査までの各工程について、関連部門が連携してデザインレビューを行い、トラブルの未然防止を図る

## 【成果】

- ◆ 生産性向上や不良削減により、毎年数千万円レベルのコスト削減
- ◆ 市場クレームは、2012年5件から2016年0件へ削減
- ◆ 新製品の売上高比率が50%以上になり、売上高2割増を実現

# 社会福祉法人敬仁会



主な事業：老人福祉、障害者福祉、救護施設、保育所

## 【事業の特性】

- ◆ 救護施設から始めて事業分野を拡大、2007年からはエリアを東京に拡大
- ◆ 計15施設を運営しており、総利用人数は2,468人（一日平均）

## 【MSの特徴】

### 1. 事業の拡大をはかる中で質を確保するための業務手順の標準化

- ◆ 施設によるサービスの違いを考慮した、施設ごとの品質マニュアル
- ◆ ISO運営委員会を設置し、優れた取り組みや問題点を共有・水平展開

### 2. 工夫を凝らした教育の実施

- ◆ システムを仕事の中で使いこなせるようになることを目指した教育
- ◆ 新人、キャリア3年程度、ベテランなど、対象を分けた階層別教育

### 3. 利用者目線に立ったリスクアセスメント

- ◆ リスクマネジメント委員会による事故の再発防止と未然防止への取り組み
- ◆ ヒヤリハット月間を設定することで職員の参加を広げるとともに、一人ひとりの利用者に即したリスク対策を実施できるように工夫

## 【成果】

- ◆ 2005年以降の新規事業の開設や新規サービスの併設が計13事例。
- ◆ 総利用人数は10年余りで2.2倍に伸長
- ◆ 4年間で、ヒヤリハットの報告件数が1.7倍に増え、利用者一人当たり事故の発生件数は53%低減